

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
23 大紀町	対談項目1-1 地方創生について 少子高齢化対策	子育て家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率は三重県が1.45%、全国が1.42%なので、全国よりは高い出生率となっています。 ・家族の在り方は、押し付けではなく希望が叶うことが大事ですが、今希望が叶っていないのが現状です。県民意識調査でも、理想の子どもの数は2.5人だが、実際は1.6人という状況です。 ・原因としては子育てにお金がかかることが考えられるが、出産一時金や子供の医療費助成では大紀町は全国トップレベルの取組をいただいています。 ・子育てにかかる費用を軽減していく努力や、若い世代が所得を増やせるよう働く場を作っていくことが大事だと思っています。 ・最近では晩婚化が進んでおり、ここ10年で婚姻数も1500組減ってきており、初婚年齢も上がってきています。 ・県では昨年12月に「みえ出逢いサポートセンター」を設置し、県内のイベントの情報発信や、相談支援をしています。 ・子供の時からライフプランを考えていくことが大事で、医学的知識を子供のころから学んでもらえる取り組みを行っています。 ・今、6組に1組の夫婦が不妊治療をしていると言われており、県では保険適用外の治療にかかる助成を行っており、また、全国で初めて男性の不妊治療に係る助成も始めました。
大紀町	対談項目1-1 地方創生について 少子高齢化対策	介護支援	<ul style="list-style-type: none"> ・県の高齢化率は27%だが、大紀町は44%。現状を受け入れて、元気な高齢者の方々の活躍する場を作っていくことが大事だと思っています。 ・介護は人材の確保が大事で、例えば草刈や洗濯など、介護福祉士の資格を持っていなくても地域の皆さんで手伝えられることをしていける「介護助手」のしくみを作っていこうと思っています。 ・また、県は、特別養護老人ホームの建設など待機者を減らす支援も行っています。 ・介護予防・日常生活支援事業は地域の皆さんの協力がなくていけない事業なので、ぜひご協力をお願いします。
大紀町	対談項目1-2 地方創生について 第一次産業の振興		<ul style="list-style-type: none"> ・大紀町は牛、酪農、ブリ等をブランド化されているところで、 ・今後TPPが導入される中、ブランド化されていない食材の価格競争の影響が懸念されます。このため、付加価値をつける、ブランド化する、売り込みをすることが大事で、県としては、こういうことができる人材の育成や売り込みをしっかりとやっていきます。 ・獣害対策についても、大規模の畑にはほぼ侵入防止策の整備を完了しましたが、小規模の畑の整備が進んでいないのが現状で、被害件数が増えてきているため、これを守っていく取組が大事だと思っています。 ・また、サルの被害額が三重県は全国1位であるため、サルの大量捕獲や群れの動きをキャッチするような仕組みを検討して、獣害被害を減らすよう力を入れていきます。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大紀町		錦漁港の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・5年ほど前にあった大内山川の氾濫では、激甚災害として整備していただきました。 ・第3種漁港である県管理の錦漁港の防波堤の整備を県にいただいています。 ・また、町では今年、海拔8m、全長150mの堤防の整備を進めています。 ・有事の際には錦漁港で物資を運び入れられるよう、強固な整備を進めていただいています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・錦漁港については、今年度は防波堤の嵩上げと耐震化を完了し、来年度は岸壁の耐震化に着手します。 ・また、錦漁港はBCP(事業継続計画)を策定し、万全の防災対策で取り組んでいきます。
大紀町	対談項目2 減災対策について	減災対策		<ul style="list-style-type: none"> ・町長リーダーシップの下、タワー建設や避難路整備等相当な規模で、かつスピード感をもって防災減災対策をしていただいています。 ・ソフト対策にも力を入れていただいております、12月7日には全町挙げての避難訓練をされると聞いています。 ・行政は、国も県も町も公助の面でハード整備は頑張るが、実際に災害が起こった時に身を守るのは自分自身です。また自分の地域がどのようなリスクを抱えているのかを知っておくことも大事なので、訓練には是非積極的に参加していただきたいと思っております。
大紀町	追加対談項目 遺族会について		<ul style="list-style-type: none"> ・滝原・阿曾・柏崎の遺族会が町の合併と同時になくなりました。3年に一度、遺族会の皆さんと靖国神社に行っており、今月4～6日にも参拝に行きました。滝原・阿曾・柏崎の3地区の皆さんにも行っていただきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の平和祈念公園内の摩文仁の丘にある慰霊碑・三重の塔の建立から50周年にあたるため、昨日、全県の遺族の83名の皆さんと参拝に行ってきました。 ・今年は戦後70周年ということで、8月15日、日本武道館で開かれた戦没者追悼式に、東京都に次いで2番目に多い12名の子ども代表団を派遣しました。遺族会の皆さんも、毎年全国で5番目に多い人数で参加させていただいております。 ・県遺族会は、「新世代の会」を作って次の世代へ繋いでいこうという取り組みを始めてもらっています。 ・先人たちへの感謝、平和の尊さを次世代の子どもたちに繋いでいくためにも、個人のペースの活動だけでなく、各地域でも次に繋げていけるような取組をしていただければと思います。 ・今年、戦後70周年ということで、国と県の戦没者追悼式で、子供たちにも献花や発表をしていただきましたが、「こういうことだと知らなかった。今後自分で考えて行動していかなければならない」との意見の子どもたちが大半でした。 ・このような機会を与えていくのは大人の責務であり、地域の皆さんのご協力をお願いします。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
大紀町	追加対談項目 伊勢志摩サミットについて		<ul style="list-style-type: none"> ・中心は志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町ですが、町も応援できることをやっていきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サミットの国のロゴマークの審査委員に県民会議のロゴマークを作成した近藤さんが選ばれ、官邸と一緒に審査をしています。 ・今回の国のロゴマークには、小・中・高・特別支援学校から7084の応募があり、前回のサミットをはるかに超える応募数でした。中でも三重県からの応募数が一番多くありました。 ・一人でも多くの県民の皆さんにご参加いただきたく、機運を高め、町民の皆さんのご協力をお願いします。 ・町民の皆さんにご協力いただきたいことが3つあります。 ・まず1点目が「寄附」です。8月31日から募集を開始し、現時点で100件で、2億円を超える寄附をいただいています。 ・2点目が「応援事業」です。みなさんが地域でやっていただく活動等にサミット応援の趣旨をつけていただき、県サミット推進局へ申請していただくと、県ホームページに公表させていただきます。どんなイベントでも結構ですので、ご協力をいただきますようお願いいたします。 ・3点目は「協賛事業」です。これから「クリーンアップ活動」や「花いっぱい運動」等に取り組んでいくので、ぜひ参加をお願いします。また、軍手やゴミ袋等の提供もしていただければ、県ホームページで公表させていただきます。 ・他にも、外国語ボランティアも公募しております。 ・サミットでは、首脳会議、配偶者プログラム、メディアセンターで提供する食事や警備の方々の弁当等、大紀町を含めた県内の食材を一品でも多く使用してもらえよう、取り組んでいます。 ・弁当については、地域の事業所の皆さんのご協力をお願いするしくみで進めています。 ・また、県産材も使用してもらって、県の魅力を発信していきたいと思っています。